

2019年11月7日
電源開発株式会社

日豪水素サプライチェーンに係る褐炭ガス化・水素精製設備の建設工事開始について

電源開発株式会社（以下、Jパワー、本社：東京都中央区、代表取締役社長 社長執行役員：渡部肇史）は豪州・ビクトリア州ラトロブバレーの褐炭から製造された水素を液化し、日本へ輸送する国際的な水素サプライチェーン構築の実証事業（以下、本プロジェクト）に参画しております。現地時間の本日、本プロジェクトにおいて J パワーが担当する褐炭ガス化・水素精製設備の建設予定地（ラトロブバレー）で定礎式が実施されました。

定礎式には、日本政府から資源エネルギー庁白井新エネルギーシステム課長、豪州の政府関係者として Tim Pallas ビクトリア州財務大臣の他、プロジェクト関係各社など多数が参画し、執り行われました。

本プロジェクトでは、褐炭ガス化・水素ガス精製・液化水素製造・液体水素運搬船・液体水素荷揚基地の実証と、水素サプライチェーンの商用化に関する検討を行います。J パワーは、これまで培ってきた石炭ガス化の知見を活かし、褐炭ガス化・水素ガス精製設備を担当します。

本プロジェクトは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）及び豪州政府の補助金を受けて、技術研究組合 CO2 フリー水素サプライチェーン推進機構（川崎重工業(株)、J パワー、岩谷産業(株)、シェルジャパン(株)、丸紅(株)、JXTG エネルギー(株)が参画）と豪州側のコンソーシアム（川崎重工業(株)、J パワー、岩谷産業(株)、丸紅(株)、住友商事(株)、AGLにより構成）が参画しております。

J パワーは、本プロジェクトの遂行を通じて、豪州における未利用褐炭の有効利用及び日本における水素社会の構築に貢献していきます。

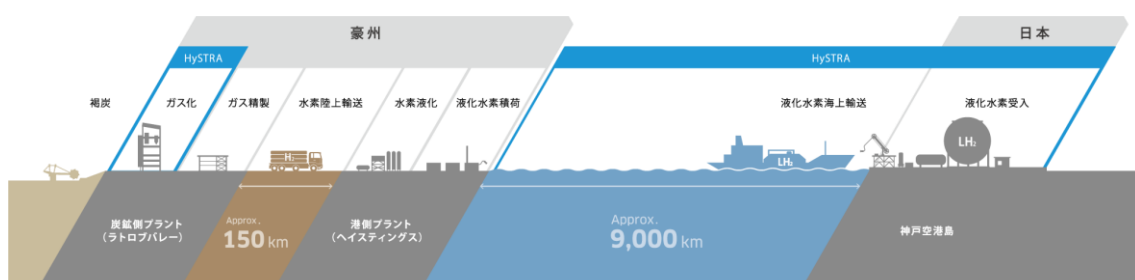


図1：水素サプライチェーンの全体図



図 2：褐炭ガス化・水素精製設備完成予想 CG



図 3：建設予定地